


機関リポジトリ構築 について

平成19年11月13日(火)・14日(水)

阿部信一 齋藤えりか 森田奈津子
東京慈恵会医科大学学術情報センター



プレゼンテーションを行う状況設定

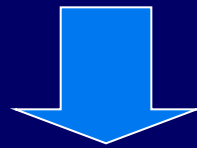
□ 状況

- 機関リポジトリ事業に関する共通認識を持つよう、情報交換および検討を通して、次年度以降の本格稼動に向けた体制を確立する。
- 今後の学内における広報・啓発や現在進行・計画中の関連事業との連携を図る（業績データベースやe-Learning等）

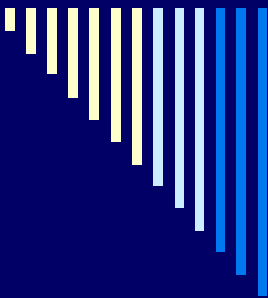


機関リポジトリとは

- 大学等の研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積し、保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム



慈恵医大の情報資源(お宝)を半永久的に蓄積・公開するためのプロジェクト





慈恵医大発行の学術雑誌

- **東京慈恵会医科大学雑誌(慈恵医大誌)**
 - ・ 明治15年(1882年)
成医会刊行「成医会月報」として創刊
 - ・ 昭和26年(1951年)
東京慈恵会医科大学雑誌に改称
- **Jikeikai Medical Journal(JMJ)**
 - ・ 昭和29年(1954年)
英文論文掲載誌として創刊

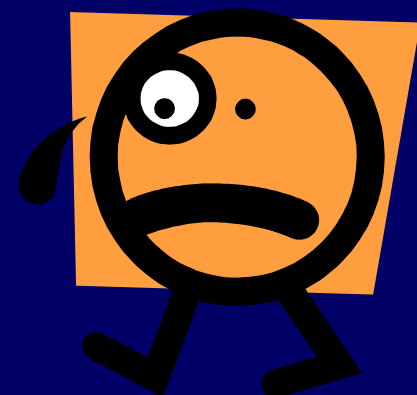


慈恵医大誌とJMJの電子化の経緯

- 電子ファイルの蓄積と学内への公開
 - 平成13年(2001年)
図書館システム導入
 - 平成14年(2002年)
図書館システムを利用したPDF
→ファイルの保存・蓄積開始
- 学内のみに公開

学外への公開の検討

- 図書館システムを利用した学外への公開
- 既存の全文提供システムへの搭載





機関リポジトリ構築の検討

- 機関リポジトリ構築による大学の研究成果物の公開
- 他の研究教育資料の公開
- 研究業績データベースとの連携

→ NII機関リポジトリ事業計画への
申請と受託(平成19年度)



機関リポジトリの意義

「各大学の教育研究活動の活性化に資するため、さらに、我が国の学術情報の流通の促進を図るためにも、各大学は、学協会との連携を図りつつ、機関リポジトリに積極的に取り組む必要がある。その場合、大学図書館は機関リポジトリの構築・運用に中心的な役割を果たすことが期待される。」

学術情報基盤の今後の在り方について(報告)

平成18年3月23日

文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会



機関リポジトリの意義

- 研究成果の効果的な発信
 - 大学の社会に対する説明責任の履行
 - 研究者・大学の知名度の向上
 - 卒業生・学外医療従事者・医学研究者とのコンテンツ共有
 - 教職員への教育・研究用コンテンツ蓄積・公開環境の提供
-

機関リポジトリ構築に向けて

1. 当面の目標
2. 初年度(平成19年度)事業計画
3. 運用体制の確立
4. 運用開始後の運用計画(平成20年度以降)





機関リポジトリ構築

1 当面の目標

- 本学の教育・研究のための新たな学術情報基盤の構築
- 紀要(「慈恵医大誌」「JMJ」)へのアクセス性の向上
- 学内作成コンテンツの統合的管理
- 教職員への教育・研究用コンテンツ蓄積・公開環境の提供
- 卒業生・学外医療従事者・医学研究者とのコンテンツ共有
- 学内における電子コンテンツ作成・管理手順の確立(権利処理・メタデータ付与等)



機関リポジトリ構築

2 初年度(平成19年度)事業計画

導入

- ハードウェア・ソフトウェアのセットアップ
(外部委託)
 - 既存コンテンツの登録
(2005年までで約1000件)
-

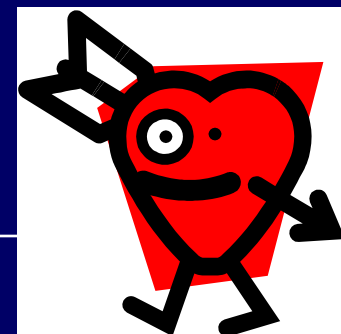
機関リポジトリ構築

2 初年度(平成19年度)事業計画 (つづき)

ハードウェア・ソフトウェアのセットアップ

- システム選定

システム	大学数
DSpace	34
XoNIps	3





機関リポジトリ構築

2 初年度(平成19年度)事業計画 (つづき)

既存コンテンツの登録

- 紀要
 - ・ 慈恵医大誌、JMJIに2002年以降に掲載された記事のPDFファイル(権利処理済)
- 教育用資料
 - ・ e-ラーニング教材中のPDFおよび画像ファイル
 - ・ 各種データベース、電子ジャーナル利用マニュアル
 - ・ 大学歴史資料の画像ファイル
 - ・ 標本解説のPDFファイル



機関リポジトリ構築

3 運用体制の確立(1)

電子コンテンツの収集および作成

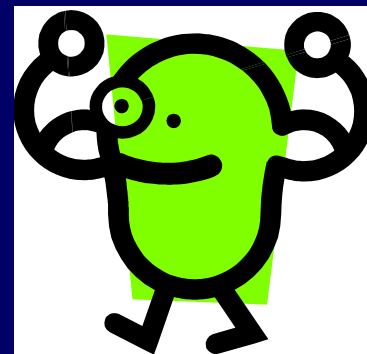
- 紀要掲載記事のPDF化
(外部委託)
 - 教育用資料・大学歴史資料の電子化
(大学内教職員)
 - 学内教職員からのコンテンツ収集と電子化
(大学内教職員)
-

機関リポジトリ構築

3 運用体制の確立(2)

コンテンツの登録

- 権利処理
- メタデータ付与
- サーバへの登録



機関リポジトリ構築

3 運用体制の確立(3)

学内への広報

ハードウェア・ソフトウェアのサポート

- 機関リポジトリ用ハードウェア・ソフトウェアの年間サポート
(外部委託)
- 大学ネットワークとの各種調整
(大学内教職員)





機関リポジトリ構築

4 運用開始後の運用計画

- 機関リポジトリ活用のための学内への広報
- コンテンツ作成について学内関連部署との連携
- 電子コンテンツ作成手順規程の策定
- リンク・リゾルバとの連動
- 近隣医療従事者、医学関連機関との教育・研究資源の共有
- 大学歴史資料コレクションの作成



大学歴史資料の蓄積と公開

- 学祖・高木兼寛が英国セント・トーマス医学
校で行った脚気に関する講演
 - Lancet 1(1906年) に講演論文として3回
にわたって掲載
 - Lancetの論文をJMJ49巻2号(2002年)に再
録し、PDFを公開
-

大学歴史資料の蓄積と公開

THE LANCET, MAY 19, 1906.

Three Lectures

ON

THE PRESERVATION OF HEALTH AMONGST THE PERSONNEL OF THE JAPANESE NAVY AND ARMY.

*Delivered at St. Thomas's Hospital, London, on May 7th
9th, and 11th, 1906,*

By **BARON TAKAKI, F.R.C.S. ENG., D.C.L.,**
LATE DIRECTOR-GENERAL OF THE MEDICAL DEPARTMENT OF THE
IMPERIAL JAPANESE NAVY.

LECTURE I.

Delivered on May 7th.

MR. TREASURER AND GENTLEMEN,—I am here to-day owing to an invitation from the staff of St. Thomas's Hospital and Medical College. I feel that it is a great honour to me personally and also a great compliment paid to the medical profession of the Japanese empire, and I thank you all on their behalf for your cordial and friendly feeling towards us.

I think some of you are already aware that I was invited by Cartwright's Lecture Committee of the Alumni Associa-

number of sailors lost through death and made invalid^s owing to general diseases was 24·09 per 1000 and those lost through death and invaliding from beri-beri 10·43 per 1000. If we now subtract 10·43 from 24·09 only 13·66 remain. Therefore it was clear that if beri-beri could be wholly exterminated the number of losses from illness would decrease to 13·66.

From 1881 to 1883 the number of cases of illness slightly decreased. In 1884 the general aspect of the health of the navy suddenly changed for the better and the number of general diseases as well as cases of beri-beri markedly decreased. The number of general diseases was 1865·02 per 1000—that is, one person became ill 1·8 times a year. Deaths per 1000 decreased to 7·98 and invalids to 7·80. The number of beri-beri cases averaged 127·35 per 1000.

average
decre
1000.
decre
1000.
So th
In 18
7·43,
1887
and
avera
the n
in 18
12·18



教育・研究のための新たな学術情報 基盤＝機関リポジトリの構築

- 既存コンテンツへのアクセス性の向上
- 学内作成コンテンツの統合的管理
- 教職員への教育・研究用コンテンツ蓄積・公開環境の提供
- 卒業生・学外医療従事者・医学研究者とのコンテンツ共有
- 電子コンテンツ作成・管理手順の確立

